

製品名: ミオシン軽鎖キナーゼ (19S15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe14345**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.33mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:2000-1:20000
分子量	211kDa

抗原情報

遺伝子名	MYLK
別名	KMLS; KRP; MLCK; MYLK; myosin light chain kinase, smooth muscle and non-muscle isozymes; myosin light polypeptide kinase; telokin;
遺伝子 ID	4638.0
SwissProt ID	Q15746
免疫原	ヒトミオシン軽鎖キナーゼの合成ペプチド

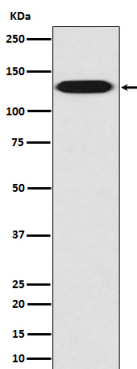
背景

非キナーゼ活性を介してアクチン-ミオシン相互作用を制御します。PTK2B/PYK2 およびミオシン軽鎖をリン酸化します。炎症反応（アポトーシス、血管透過性、白血球の血管外遊出など）、細胞の運動性と形態、気道過敏性、および喘息に関連するその他の活動に関与します。生理的および喘息性気道抵抗に不可欠な、気道平滑筋の緊張性収縮に必要です。カルシウム/カルモジュリン依存性ミオシン軽鎖キナーゼは、ミオシン軽鎖（MLC）のリン酸化を介して平滑筋収縮に関与しています。また、非キナーゼ活性を介してアクチン-ミオシン相互作用を制御します。PTK2B/PYK2 およびミオシン軽鎖をリン酸化します。炎症反応（アポトーシス、血管透過性、白血球の血管外遊出など）、細胞運動性と形態、気道過敏性、および喘息に関連するその他の活動に関与しています。生理的および喘息性の気道抵抗に必要な、緊張性気道平滑筋収縮に必要です。胃腸運動に必要です。おそらく細胞骨格再編成の調節を介して、血管透過性だけでなく内皮透過性の調節に関与しています。神経系では、培養において星状膠細胞のプロセスの成長開始を制御し、培養された交感神経節細胞間に形成されるシナプスでの伝達物質の放出に関与することが示されている。線維芽細胞のアポトーシスをもたらすシグナル伝達配列に重要な役割を果たしています。上皮細胞の生存の調節に役割を果たしています。特に巾着創閉鎖時のアクトミオシンリング収縮中に、上皮の創傷治癒に必要です。RhoA 依存性膜プレブ形成を媒介する。カルシウム依存性シグナル伝達において TRPC5 チャンネルの活性を誘発し、細胞膜での細胞内局在を誘導する。細胞遊走（腫瘍細胞を含む）および腫瘍転移を促進する。リン酸化による PTK2B/PYK2 活性化は ITGB2 活性化を媒介し、したがって急性肺損傷（ALI）中の好中球遊走の誘発に不可欠である。視神経乳頭アストロサイトの遊走を調節する可能性がある。おそらく有糸分裂細胞骨格の調節に関与している。おそらく接合部周囲のアクチンミオシンリングにおける ZO-1 交換を調整することにより、タイトジャンクションを調節する。熱傷誘発性微小血管バリア損傷を媒介し、MLC をリン酸化することにより、微小血管透過性亢進の発生において内皮収縮を誘発する。腸管バリア機能障害に必須である。ジアルジア症による腸管感染において、細胞骨格 F アクチンとタイトジャンクション ZO-1 の再構成を介して、ジアルジア属真菌による上皮バリア機能の低下を媒介する。子宮頸がん細胞における低張性 Ca(2+)流入とそれに続く容積感受性有機浸透圧調節物質/陰イオンチャンネル (VSOAC) の活性化に必須である。抗アポトーシスを介して乳がん細胞の高い増殖能に関与する。

研究分野

カルシウム;血管平滑筋の収縮;接着斑;アクチンと細胞骨格を調節します。

画像データ



HUVEC 細胞溶解物中のミオシン軽鎖キナーゼ発現のウェスタンブロット分析。